

不登校のイメージ変えてみませんか？

# Uni Path

ユニパス



ユニパスは子どもたちの学びの場の多様化と  
社会への認知拡大を目指し生まれました。

**すべての子どもたちに通じる  
一人ひとりを尊重した言葉です。**

※「UniPath」は高校生リバースメンターによって提案された言葉です。

※高校生リバースメンターとは、知事の相談役に任命され、知事へ政策提言を行う高校生のことです。

## UniPath（ユニパス）について

長期間学校に通えない子供たちの中には、教育支援センターやオンライン3Dメタバース「つなサポ」、フリースクールなど、一人ひとりのニーズに応じた多様な学びを選ぶ子もいます。

その一方で、「不登校」の「不」という言葉には、どうしてもネガティブな印象をもってしまう人もいます。

こうしたことから、群馬県では、子どもたち一人ひとりの背景を理解し、多様性を尊重するような前向きな言葉を使っていきたいと考えました。そこで、群馬県では「不登校」を独自で言い換え、「UniPath（ユニパス）」と表現します。

混乱を防ぐため、国の調査等では「不登校」の表現を使う場合もありますが、可能な限り「UniPath（ユニパス）」で表現したいと考えています。

この「UniPath（ユニパス）」は、「ユニーク」などで使われる「ユニ」と「道」を意味する「バス」をつなげた言葉で、「一人ひとりの道」を意味しています。そして、「一人ひとりがそれぞれの思い描く道を歩んでいいんだ」と、子どもたちに自らの状況を肯定的に捉えて欲しいという想いが込められています。

今後、群馬県としては、県が作成する資料等において「UniPath（ユニパス）」という表現を用いながら、こうした考え方や思いを丁寧にお伝えしていければと考えております。

群馬県では、この「UniPath（ユニパス）」という言葉を用いることで、すべての子どもたちの可能性や未来への希望を伝えていきたいと思います。

単に言葉を変更すればよいというのではなく、「UniPath（ユニパス）」という言葉の響きの力を借りて、「学校に通えないことは悪いことではない」「一人一人にあった多様な生き方や学びを大切にする」という理念を広めていきたいと考えています。